

2000年代

日本企業の海外展開と日外協

新興国経済が急成長を遂げる一方で、競争はさらに激しく。世界的に政情不安定の中、日外協は危機管理支援を強化。



インドなど新興国が成長
(ハイデラバードとオールドデリーの雑踏、撮影：西川裕治)

非製造業の投資が製造業を逆転

ブラジル、ロシア、インド、中国がその頭文字をとって「BRICs」と呼ばれた。BRICsをはじめとする新興国は、目覚ましい成長を遂げ注目を集めた。アジア通貨危機の影響を脱したASEANはじめ東アジア地域の経済も高い伸びを示す。日本企業は新興国市場戦略に力を入れるようになる。

一方で、2000年代に入ると、力をつけた韓国や台湾・中国のメーカーが台頭、日本企業は追われる立場になった。欧米企業対日本企業というそれまでの構図が崩れ、競争は世界的なレベルで激化する。同時に、業界を越えて、国を越えて、調達・生産から製品開発、設計、デザインに至るまで国際分業のネットワークができて上がっていく。

製造業がけん引してきた日本の対外直接投資は、非製造業が海外進出・海外企業買収を盛んに行うようになったことによって、08年、投資残高で製造業を逆転した。

二国間社会保障協定実現に向け

二国間社会保障協定は赴任先での公的年金保険料の支払い義務を相手国との間で相互に免除しようというものである。日本との二重払いを回避できるコストメリットは大きい。日外協は

経団連、日本貿易会とともに90年代から厚生労働・外務両省に対し二国間社会保障協定の早期締結を要望し続けてきた。00年のドイツに続き、イギリス、韓国、アメリカ等との協定が相次いで発効した。

不安定化する国際情勢を背景に、リスク・マネジメントの問題にも力を入れるようになり、調査報告書『グローバル経営における日本企業のリスク・マネジメント』(04年5月発行)がまとめられた。

海外派遣者ハンドブックは、旧東欧のEU化の動きの中で、『欧州労使関係編』(イギリス・アイルランド・スペイン、00年)、『欧州労使関係編第二部』(ドイツ・フランス・オランダ、01年)、『欧州労使関係編第三部』(ポーランド・チェコ・スロバキア・ハンガリー、02年)。また、中国の総括的な研究の必要性から、03年に『中国(WTO加盟後の労働事情)編』、さらにチャイナプラスワンを視野に04年『ベトナム・タイ労働事情編』を刊行した。

危機管理のための認定試験を実施

01年9月に米国で起きた同時多発テロは、犠牲者約3千人、負傷者6千人以上にのぼる未曾有の無差別大量殺りく事件となった。さらに、その後のアメリカによるアフガニスタン攻撃とイラク攻撃によって、報復テロの危険性が

2001

● 中国、WTOに加盟
● 米同時多発テロ発生

03

● 米国、イラク攻撃を開始
● フセイン独裁政権が崩壊
● アジア地域を中心とした急性肺炎 SARSでWHOが注意報

05

● 京都議定書発効
● 中国、反日デモ
● パリ島、同時爆弾テロ

08

● 金融危機リーマンショック

09

● 米国、メキシコ 豚インフルエンザのヒトへヒト感染
● 米国、オバマ大統領誕生



米同時テロ・航空機に衝突され炎上する世界貿易センタービル (AFP=時事)

高まった。医療問題においても、02年11月、中国の広東省で発生した新型肺炎 SARS (重症急性呼吸器症候群) で人の移動が厳しく制限されるなど、経営への直接的なインパクトは大きかった。

これらの問題をきっかけに、海外安全センターでは取り組みを拡充、00年9月「海外安全アドバイザー制度」を創設した。これは、エキスパート(会員企業のOBを軸に)を当協会の「海外安全アドバイザー」として委嘱し、会員企業からの各種問い合わせや相談があった際に最も適任と思われるアドバイザーを派遣、手頃な費用でコンサルティングや研修の講師を行うものである。

02年からは海外安全新任担当者を対象に、短期集中速成型の研修カリキュラムによる「海外安全新任担当者研修」を実施。さらに09年から企業の危機管理のレベルアップに貢献することを目的に、「海外安全・危機管理者 認定試験」をスタートさせた。

海外安全担当者間のネットワーク

「海外安全グループ研究会」は緊急時にタイ

ムリーな情報交換を行える担当者間のネットワークづくりのため03年に設けられた。実験的に東京地区でグループを立ち上げ、04年にさらに東京と中部で各1グループ、05年に関西で1グループを立ち上げ、それぞれ年間5回の会合をもつことになった。討議テーマには、SARS 対応などその時々ホットなトピックスが取り上げられた。

98年から単発で実施してきた「海外赴任前セミナー」は、00年からは年3回に。さらに、会員からの要望を受け06年からは年10回開催されるようになった。



「海外安全・危機管理」と「健康と医療」が中心の海外赴任前セミナー

「海外安全部会」は年間3回実施するうちの1回を毎年1月に賀詞交歓会を兼ねて開催。情報交換と官民の相互交流の場として位置付け、

外務省の海外安全部門の担当官を講師に招き、官民の連携強化を図っている。

『日外協 Monthly』は00年1月号から『月刊グローバル経営』へと一新された。

